

## 参加者

望月 清美 (PTA 副会長)  
山崎 真理 (小山中学校校長)  
村田 典久 (津久井生涯学習センター所長)  
熊坂 和也 (校長)  
山田 美穂 (全日制教頭)

(記録：依田)

## 1. 会長挨拶

校長：それでは第1回の学校運営協議会を始めさせていただきます。本日は司会進行を私が行わせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。顔ぶれ、委員の方の入れ替わりがありましたので後ほどご紹介いたします。

## 2. 委員紹介

校長：今年度から学校運営協議会に第三者評価の機能が付け加えられた。本会で意見をまとめ、大学からお越しいただいている新開さん、曾根さんに第三者評価の役割を担っていただく予定。

### (資料の確認)

校長：資料のあちこちに「地域」というキーワードが入っている。今日これから見ていただく生徒の活動は「地域探究」、津久井を取り巻く地元を探究するというテーマを基に学習を進めている。この取り組みは3年目を迎えた。だんだん良い形になってきているという実感がある。理想形は、生徒が自ら探究する課題を見つけ、探究し、その成果を発表すること。今それぞれの講座で、テーマに基づいて教員も一緒に探究をしている。生徒の将来を見据えたときに大きな力になると思っている。ゆくゆくは普通科目の授業の中にも探究活動を取り入れたい。今日ご覧いただく講座の1つは、私ともう1名の教員が受け持っている。自然災害を探究し、自分の身に起きた場合を想定した対策を考える、という内容。私の講座では今月18日に相模原赤十字病院の能登半島地震の災害ボランティアの体験講演、日本赤十字社神奈川県支部による防災講座を予定している。本日は能登半島地震に関する動画視聴からテーマを拡げていく予定。また、今年度から意識していることは、津久井高校は誰が作るの？と投げかける。生徒は、生徒です、と答える。生徒自身が自分たちの学校をこうしたい、盛り上げていきたいと思ってほしい。生徒総会で、ジャージ登下校を認めてほしいという案が出た。生徒たち自身が徹底できるか問いかけた。私に残された限られた時間で追求していきたい。この会は秋にもう1回、年度末に最終回を迎える。次回には探究活動の発表の様子をご覧いただきたい。そしてこの会合では、ざっくばらんに、遠慮

なくお話していただく場にしたい。本校にはいろんな生徒がおり、生徒と一緒に教員も向き合っている。

教頭：学校外の活動も多いのか。

校長：まつりばやしのゼミは、地域のお祭りにも参加する予定。「シン・相模原市PR大作戦 2.0」は、相模原市の魅力発信。「寺社めぐり」は校外へ出向いての研究を行っている。生徒を育てるのは教員だけでなく、探究活動を通じて知り合った地域の方々も含まれる。

教頭：学校行事では、地域の方々の関わりや協力が必要不可欠だと実感した。より一層連携を強めていきたい。

校長：小山中学校ではどのような取り組みを行っているのか。

山崎：熊坂校長が私の目指すべき姿。小山中学校も地域とのつながりを実感している。学習支援でも民生委員をはじめ多くの方々の協力を得ている。

### 3. 授業見学

校長：本日はありがとうございます。私の講座では探究のテーマ決めまで終わった。災害関連死、ペットとの避難、避難所生活、救助活動などのテーマが出揃った。見学を終えての感想をいただけたら。

村田：高校の授業を久しぶりに見た。タブレットの活用方法がよく分かった。生徒がざっくばらんに話していて興味深かった。

山崎：いつも楽しく見させていただいている。昨年津久井のPR動画の発表を見せていただが、今日みたいところからスタートしているのだと思った。かなり専門的な内容を学習していると思った。同じ写真を題材にどんなテロップを入れたら効果的な広告になるか、どんな色を使えばよいか、数字やフォントの工夫など。著作権の話などとてもよかった。

望月：祭囃子の動画を視聴していた。生徒の中には積極的に発言している子もいた。

校長：文化祭の出し物に探究活動のブースを出しても良いのではというアイデアもある。生徒や職員に投げていきたい。今後も何かあればメール等でもご連絡いただきたい。津久井高校の活動で気にかけていただいたことはいつでもご意見をいただきたい。

### 4. 閉会